

## 1 計画書の集計結果

### (1) CASBEE 評価（平成 17 年度～）

	事務所	学校	物販店	飲食店	集会所	病院	ホテル	集合住宅	工場	計
S	4	9	0	0	1				1	15
A	23	28	9	0	1	9	3	10	9	92
B+	28	42	21	2	12	51	13	130	65	364
B-	9	3	19	6	7	26	14	130	54	268
C							1	2	2	5
計	64	82	49	8	21	86	31	272	131	744

### (2) 府内産木材等及び再生可能エネルギー利用設備の導入状況（平成 24 年度～）

※京都市除く。

計画書提出数	府内産木材等使用量	再生可能エネルギー利用量
11	35.71m <sup>3</sup>	319万 MJ/年 ※ 太陽光発電 330kw 分に相当

## 2 制度概要

- 床面積（増築にあつては増築に係る部分）の合計が<sup>2</sup>2,000m<sup>2</sup>以上の建築物（特定建築物）の新増築時に「特定建築物排出量削減計画書」の提出を義務付け
- 計画書に添付される CASBEE 評価結果の内容等を公表することにより、建築物に係る温室効果ガスの排出削減などを促進

### CASBEE とは

省エネや省資源・リサイクル性能といった環境負荷削減の側面はもとより室内の快適性や景観への配慮といった環境品質・性能の向上といった側面も含めた、建築物の環境性能を総合的に評価する仕組み

- 平成 22 年 10 月に条例を改正し、特定建築物について、
  - ① 利用可能な居室総面積を基に算出した義務量、府内産木材等（ウッドマイレージ CO2 認証木材、みやこ杉木など）の使用
  - ② 一定規模以上の再生可能エネルギーを利用するための設備の導入を新たに追加
- ⇒ 平成 24 年 4 月 1 日以後に確認申請を行う特定建築物にこれらの義務規定を適用

1-1 建物概要				1-2 外観
建物名称	〇〇ビル	階数	地上〇〇F	外観パース等 図を貼り付けるときは シートの保護を解除してください
建設地	〇〇県〇〇市	構造	RC造	
用途地域	商業地域、防火地域	平均居住人員	XX 人	
気候区分		年間使用時間	XXX 時間/年	
建物用途	事務所	評価の段階	実施設計段階評価	
竣工年	2014年12月 0.0	評価の実施日	2010年7月8日	
敷地面積	XXX m <sup>2</sup>	作成者	〇〇	
建築面積	XXX m <sup>2</sup>	確認日	2010年7月10日	
延床面積	15,000 m <sup>2</sup>	確認者	〇〇	

### 2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

**BEE = 1.0** ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値: 100%  
②建築物の取組み: N.A.  
③上記+②以外のオンサイト手法: #VALU  
④上記+オフサイト手法: #VALU

(kg-CO<sub>2</sub>/年・m<sup>2</sup>)

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです。

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q のスコア = 3.0**

#### Q1 室内環境

Q1のスコア= 3.0

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア= 3.0

#### Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア= 3.0

**LR のスコア = 3.0**

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア= 3.1

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 3.0

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア= 3.0

3 設計上の配慮事項		
<b>総合</b> 注) 設計における総合的なコンセプトを簡潔に記載してください。		<b>その他</b> 注) 上記の6つのカテゴリー以外に、建設工事における廃棄物削減・リサイクル、歴史的建造物の保存など、建物自体の環境性能としてCASBEEで評価し難い環境配慮の取組みがあれば、ここに記載してください。
<b>Q1 室内環境</b> 注) 「Q1 室内環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。	<b>Q2 サービス性能</b> 注) 「Q2 サービス性能」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。	<b>Q3 室外環境 (敷地内)</b> 注) 「Q3 室外環境 (敷地内)」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。
<b>LR1 エネルギー</b> 注) 「LR1 エネルギー」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。	<b>LR2 資源・マテリアル</b> 注) 「LR2 資源・マテリアル」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。	<b>LR3 敷地外環境</b> 注) 「LR3 敷地外環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Building Environmental Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■ 「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■ 評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される  
 ■ LCO<sub>2</sub>の算定条件等については、「LCO<sub>2</sub>算定条件シート」を参照されたい